

県内から2作品が入賞

534

「地方の時代」映像祭

地方祭のドキュメンタリー映像作品を顕彰する「地方の時代」映像祭2017（関西大など主催）が11月17日、大阪府吹田市の関西大千里山キャンパスで開かれる。各地のテレビ局や市民学生などが制作した187作品が寄せられ、入賞が決まった32作品と1次審査を通過した約70作品が会期中に上映される。

【関野正】

第37回の今年は、全1407ケーブルテレビ生・自治体部門に79▽
 国から▽放送局部門に、ビ部門に45▽市民・学 高校生・中学生部門に

14—の作品が集まった。
 県内からは、豊後淡路三原高（南あわじ市）が地元伝統芸能の「人形浄瑠璃をテーマに制作した「温故創新」（8分）を出題。また、西宮川女子大付属高（西宮）

3年生がウエディングドレスを製作する様子を記録した「JKのウエディングドレス（7分）」を出品し、ともに入賞を決めている。

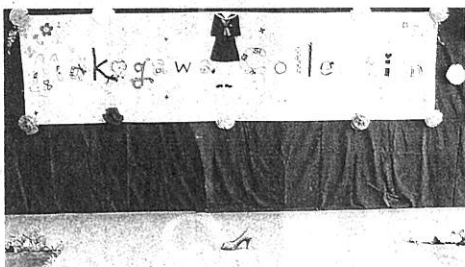
事務局は「人口減少や過疎高齢化、子育てなど、現代社会が直面する課題を取り上げた作品が目立った。また、LGBTなど性的少数者を取り上げた作品も取り上げた作品も目立った」としている。

11日の映像祭初日に入賞作から「クランプリ」などの各賞が決まる。この日午後2時、日本ペンクラブ会長の吉岡忍さんが「表現の自由の今」と題して記念講演を行い、午後4時からシンポジウム「テレビは挑戦を続ける」がある。12月17日の午前10時半～午後6時、ワークショップや入賞作品の上映などがある。無料。問い合わせ先は映像祭実行委員会事務局（06・63363・3336874）。

県立淡路三原高の「温故創新」から
 二いづれも「地方の時代」映像祭実行委員会事務局提供



大阪で11日開幕 初日にGP発表



豊川女子大付属高の「JKのウエディングドレス」から